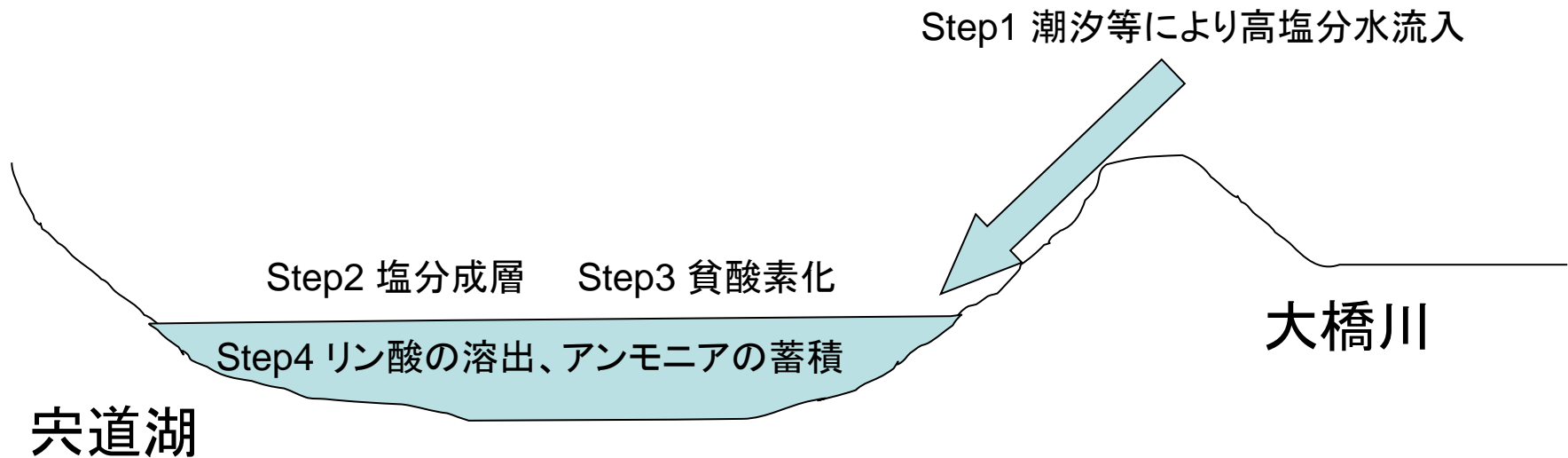


# 突道湖における塩分成層の発生・消滅と 底層の溶存酸素濃度の変動に関する研究



# 目的

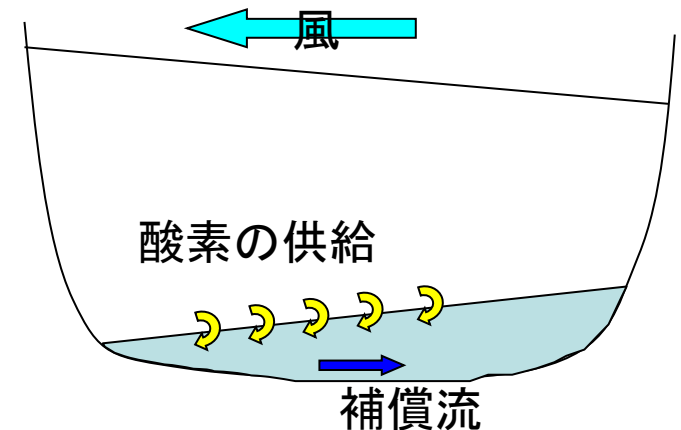
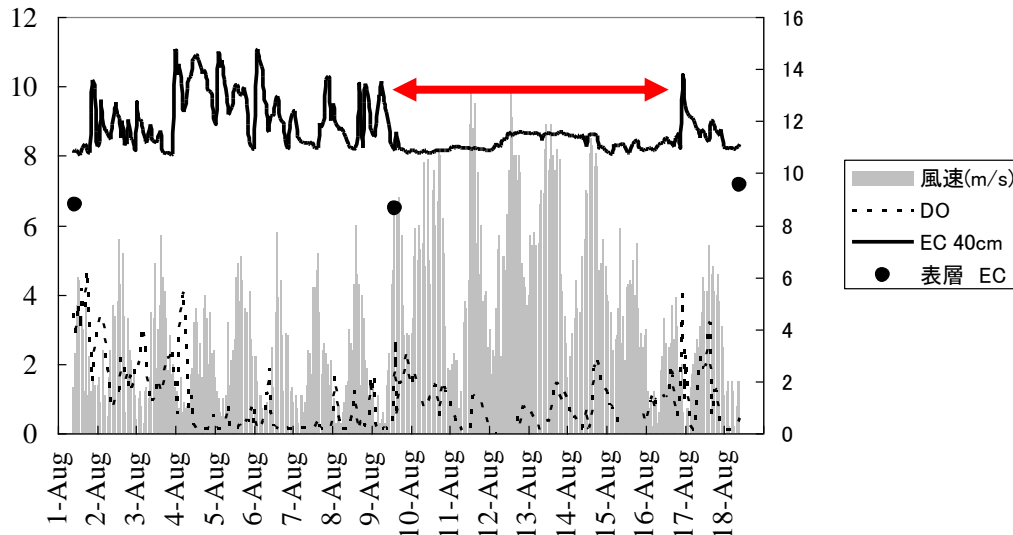
## 以下の未解明事象の把握未解明の事象

- ①塩分成層はいつ発生するのか？
- ②塩分成層内部の溶存酸素はどのように変化しているのか？
- ③発生した塩分成層は風等によりどのように消滅するのか？
- ④底層水の流動はどの程度なのか？

②について

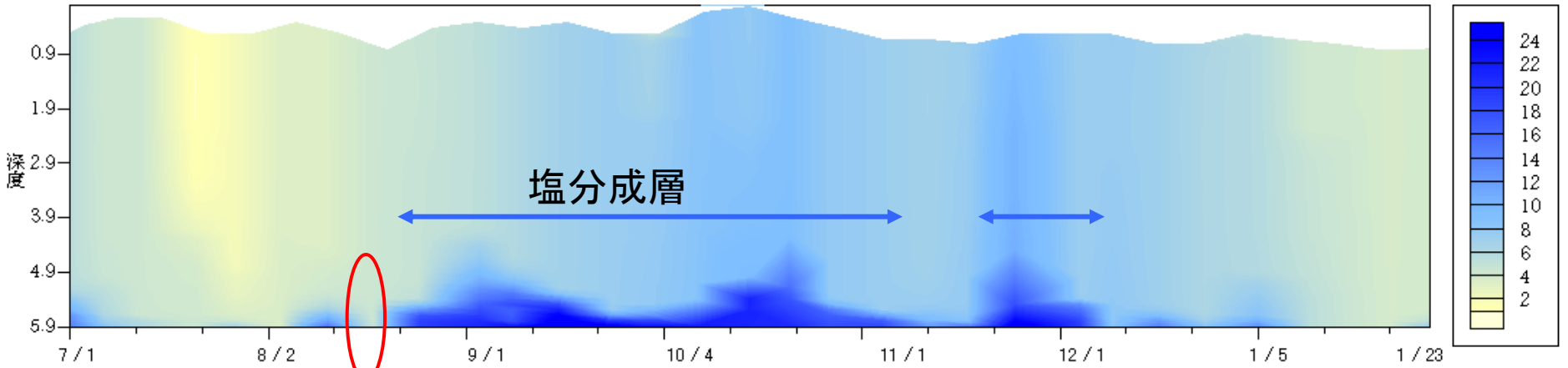
高塩分水の流入のない安定した成層がある期間(図の矢印の期間)

底層は貧酸素化しているが、風によると思われる溶存酸素濃度の上昇が見られる。(風速8m/s以上で成層内部に酸素供給が起こる？)

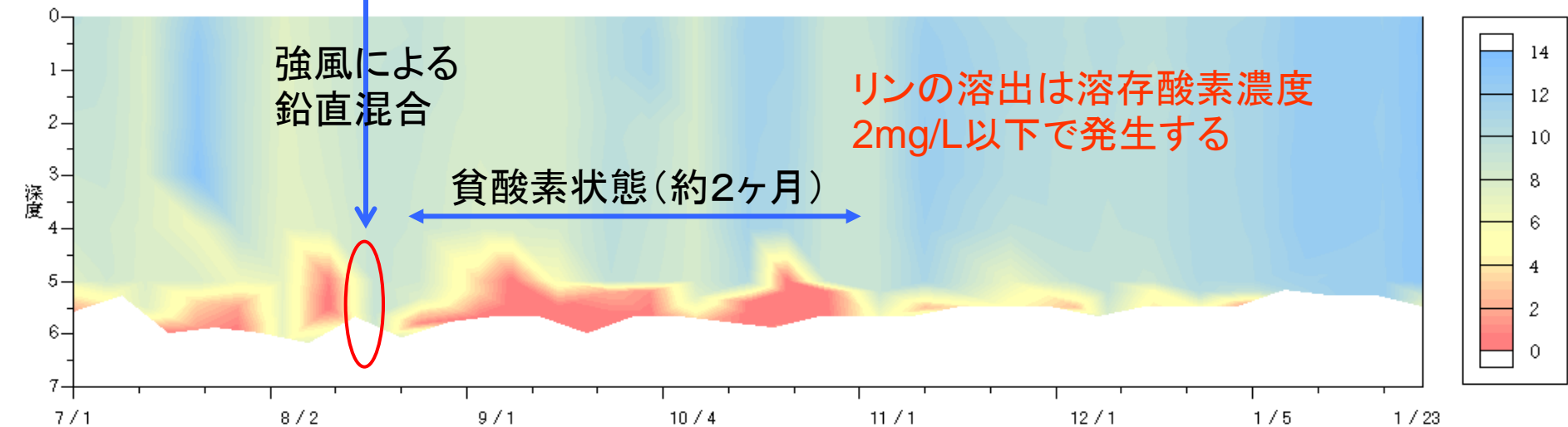


# 尖道湖湖心での毎週調査 (H22年7月1日～)

## 電気伝導度



## 溶存酸素濃度



# 調査方法

H23.7.1 0:00から測定開始

・塩分計:

底から0,10,20,30,40,50,60,80cm、

表面下1m、合計9台

・溶存酸素計、流速計:

底から10cm

・測定間隔:10分

1ヶ月ごとに交換(2セット用意)、12ヶ月測定

・風向・風速:松江气象台10分データ

(設置状況は水中カメラで確認)



# 2011年度の水質

